

日本語讀本
卷三

布哇教育會編纂

版權
所有

Copyright 1930

By

Hawaii Kyoikukai

第二期

もくろく

一	布 ^フ 哇 ^{ライ} の島々	一	十二	虎 ^ト とあり	三十三
二	舟あそび	三	十三	カフィー	三十八
三	母の手つだい	五	十四	木をうる日	四十二
四	るすい	八	十五	ヒヨコ	四十五
五	花が咲いた	十二	十六	手紙	四十九
六	水ノタビ (一)	十三	十七	かるた取	五十三
七	水ノタビ (二)	十六	十八	水と火	五十八
八	カピオラニこうえん	十八	十九	人のなきけ	六十三
九	水ぞっかん	二十二	二十	えんそく	六十八
十	小さい星	二十六	二十一	笑い話	七十一
十一	天 ^{あま} の岩屋	二十八	二十二	ゴム	七十三

二十三	私のくせ	七十八	三十六	ひよどりごえ	(二)	百二十四
二十四	土の中のたから物	八十一	三十七	ひよどりごえ	(三)	百二十七
二十五	笛吹くおうかみ	八十三	三十八	雨		百三十一
二十六	コウモリ	八十七	三十九	キラウエア火山		百三十二
二十七	織物	九十	四十	鯉のぼり		百三十七
二十八	猫と狐	九十四	四十一	し、と虎と狐		百三十九
二十九	かしこい子供	九十八	四十二	海の水		百四十九
三十	パイナップル	百三	四十三	火の始 (二)		百五十三
三十一	島の船	百五	四十四	火の始 (三)		百五十七
三十二	古机	百八	四十五	どくりつさい		百六十二
三十三	ホノル、	百十二		かがい		
三十四	花賣	百十六	一	あせをかいした猿		一
三十五	港	百十九	二	かさぎの橋		二

一 布哇の島々

私どものすんでいる布哇の島々は、太平洋のまん中にあります。あつささむさのちがいが日本のようではなく、年中あたたかです。すばしい風がそよくと吹いています。草や木がいつでも青々としげつていて、のにも山にも、うつくしい花のたえる時がありません。

草 く 中 | 々

上、かさゝぎを天につかわすことにしました。
かさゝぎは天の川に来て、王子とおひめ様のこ
のごようすを見ました。天上のこのおなげきが、
下界のあのかなしみであるを知つて、さつそく
橋をかけて、お渡し申すことになりました。そ
こでかさゝぎは多くのなかまをよびよせて、天
の川の南の岸から北の岸まで、頭をそろえ羽を
合おせて、美しい橋をかけました。お二人はこ
れを見て大そうおよろこびになりました。
王子はやがてその橋をお渡りになりました。
下界の雨もそれで晴れたと申します。

(國語讀三)

昭和四年七月二十二日印 刷
昭和四年七月二十五日發 行
昭和六年五月三十日修正印刷發行

版 權
所 有

編纂者兼 發行者
社団法人 布哇教育會

東京市京橋區銀座西七丁目一番地

印刷者 株式會社 帝國地方行政學會

電話銀座 六六〇、六六一、六六二、六六三番
振替貯金口座東京一三番

Made in Japan